

【7-5-f】

## 城下町新発田における歴史的建造物の分布と建築的特徴

## Distribution and Characteristic of Historic Buildings in SHIBATA Castle Town

山田 貴一\*1

Takakazu YAMADA

岡崎 篤行\*2

Atuyuki OKAZAKI

The purpose of this paper is to clarify distribution and characteric of historic buildings in SHIBATA castle town . The authors survey the shape of all buildings we can see in SHIBATA castle town area for the purpose. And we drew historic buildings from the all buildings .

From this survey , 803 historic buildings are drawn and the percentage of historic buildings is 20% . There are 4 districts whose percentage of historic buildings is 30% in SHIBATA castle town area . About characteristics of historic buildings , 1 main form is drawn from 12 forms in *Samurai* zone and town zone each . The form of town zone is in agreement with the characteristic streets.

**Keywords** : SHIBATA City , Castle Town , Historic Buildings , *Samurai* Residence , Townhouse  
新発田市 , 城下町 , 歴史的建造物 , 武家屋敷 , 町家

## 1 研究の背景と目的

新発田市は、新潟県の北部に位置する、近世城下町を基盤とした地方中核都市である。かつて城下町であった地域(図1、以下旧城下地域)は、現在、同市の政治的・経済的な中心地となっており、その都市骨格は、現在も城下町時代のものに基づいている<sup>1)</sup>。

近年、同市は新発田城の復元事業をはじめとして、城下町としての歴史的景観整備に力を入れている。その一環として、歴史的建造物の調査事業<sup>2)</sup>が行われた。この調査では、行政資料を基にした抽出と現存の確認、外壁と屋根の外観調査が行われ、旧城下地域に比して、広域な単位での残存状況が確認された。しかし、景観整備を行う上では、より詳細な地区単位で、歴史的建造物の数的、質的な特性を把握する必要がある。

本研究では、新発田市旧城下地域において、①歴史的建造物の分布、②歴史的建造物の建築的特徴、を明らかにし、同地域の都市景観整備を考える上での基礎資料を得ることを目的とする。

## 2 研究方法

研究対象地は旧城下地域<sup>(1)</sup>とし、対象地内の全建造物に対して現地での外観調査を行う。調査結果の集計には、区分けの単位として、「旧城下地域全体」「武家地/町人地」「37の地区割」の3段階の指標を用いる。「37の地区割」は、旧町丁割を基にして独自に定めたもので、各地区の規模は、現町丁割よりも小さいものとなっている。

外観調査では、まず、歴史的建造物<sup>(2)</sup>の抽出を行う。次に、抽出された歴史的建造物に対して、外観に関する調査を行う。調査項目は、用途に関するもの、形態に関するもの、材料に関するもの、仕上げ・意匠に関するもの、等で20項目以上である。これら調査の結果より、歴史的建造物の残存状況と外観的特徴を把握する。さらに、外観的特徴から歴史的建造物を類型し、主要となる建築形態を抽出する。得られた主要形態について、その建築的特徴と要因に関して、集計・分析を行う。

以上より、旧城下地域における歴史的建造物の分布と建築的特徴について考察を行い、その現状を把握する。

\*1 新潟県庁

Niigata Pref

\*2 新潟大学工学部建設学科・助教授(工博) Assoc.Prof., Dept. of Civil and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

### 3 歴史的建造物の残存状況 (図1、図2、図3)

旧城下地域において、4036棟の建造物を確認し、このうち、歴史的建造物は803棟を確認した。尚、本研究における全建物数は、現地にて確認できた建造物の棟数であり、正確な現存棟数と一致するものではない。旧城下地域全体の平均残存率は、20%であった。

次に、本研究において定義した武家地と町人地での残存数と残存率について見る。武家地では2389棟を確認し、このうち歴史的建造物は391棟を確認した。残存率は16%であった。町人地では1647棟を確認し、このうち、歴史的建造物は412棟を確認した。残存率は25%であった。武家地と町人地の比較では、町人地の残存率が武家地に比して、高いことがわかる。

地区別に比較すると、最も残存率が高い地区は下町地区で、残存率は47%、棟数は55棟であった。次いで、田所町が38%、指物町が33%、桶屋町30%と高く、これら4地区が残存率30%以上であった。残存率25%以上の地区は、37地区中10地区で、うち8地区が町人地であった。主屋<sup>(3)</sup>残存率を比較すると、最も高いのは下町で、唯一40%を超えた。30%以上の地区も他になく、下町は重要な地区であるといえる。20%を超える地区は、町人地では田所町、指物町、上鉄砲町、立売町、中町、麩屋町の6地区である。武家地では、西ヶ輪、東外ヶ輪、徒士町の3地区である。主屋残存率が高い地区は、住宅や店舗の歴史的建造物が多い地区であるため、建築的特徴を考える対象として重要である。

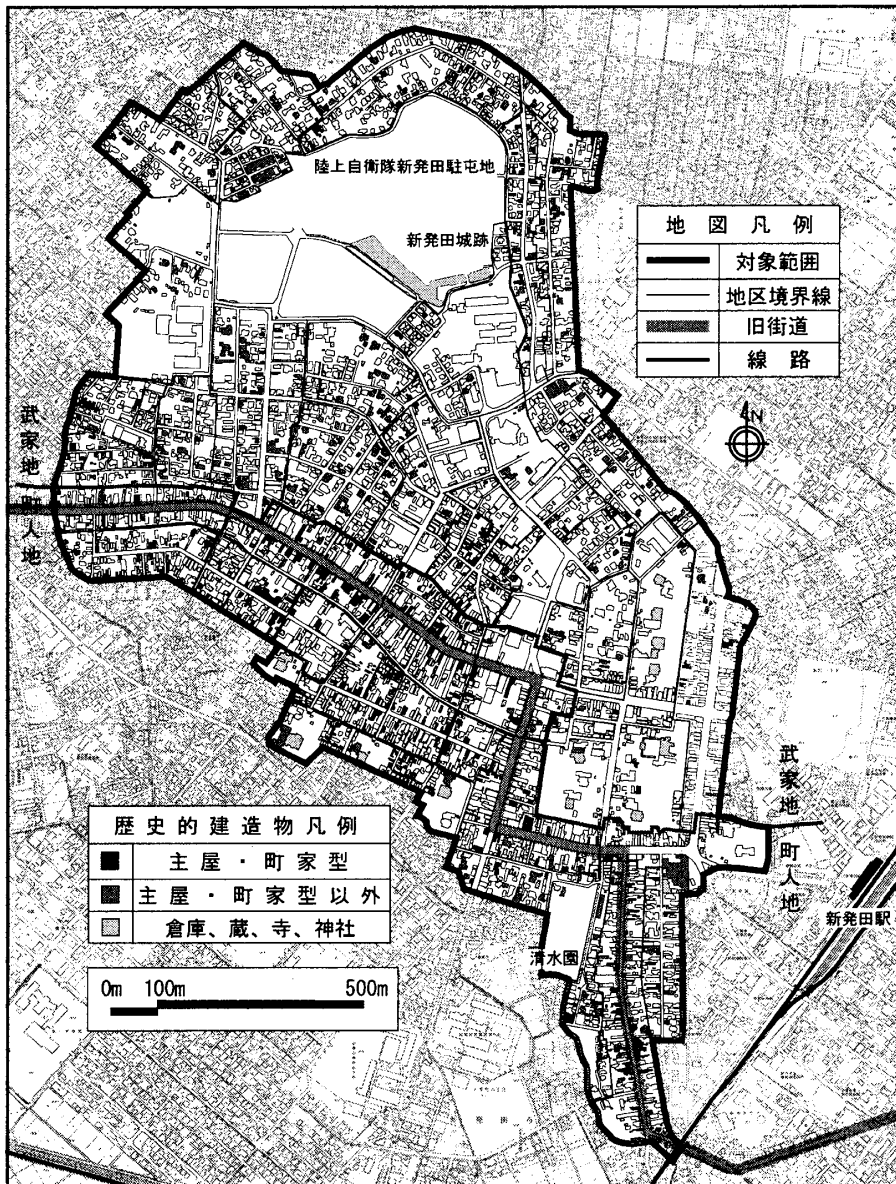


図1 歴史的建造物の分布

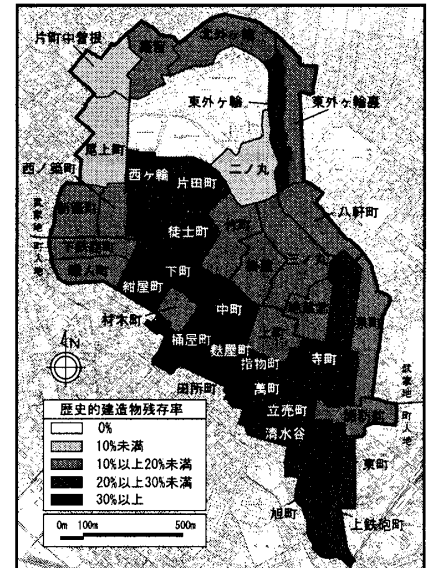


図2 歴史的建造物の残存率

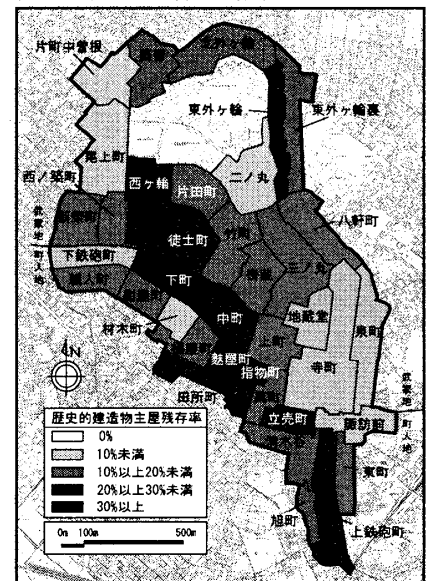


図3 歴史的建造物の主屋残存率

#### 4 歴史的建造物の特徴 (図4, 図5, 写真)

歴史的建造物の建築的特徴を考えるにあたり、本研究では「階高」「棟向き」<sup>(4)</sup>「入り方」の形態に関わる3指標に注目し、これらから類型を行った。各指標の項目は、「階高」が「平屋/2階」の2種類、「棟向き」が「横屋/竪屋/横・竪」の3種類、「入り方」が「平入/妻入」の2種類で、類型のパターンは計12種類になる。尚、「棟向き」は主たる棟の前面道路に対する向きであり、「横・竪」は、前面より「横向き+竪向き」となるものである。

まず、全体的な傾向として、「階高」は、武家地で「平屋」が多く、「町人地」で「2階」が多かった。「棟向き」を見ると、「横屋」「竪屋」といった直屋状の形態は、「平屋」にも「2階」にも見られるが、「横・竪」は「平屋」に対して「2階」が非常に多いことがわかる。「入り方」を見ると、「横屋/平入」「竪屋/妻入」といった、前面から見た場合に自然な「入り方」となるものが多い。

形態の類型を見ると、武家地では、「平屋/横屋/平入」が65棟、武家地全体における、主屋の歴史的建造物中の23%で、最も多かった。しかし、「2階/横・竪/平入」「平屋/竪屋/妻入」も比較的良好に見られ、他の形態と混在している地区が多い。町人地では、「2階/横・竪/平入」が129棟、町人地全体における、主屋の歴史的建造物中の45%を占め圧倒的に多い。両形態の、武家地あるいは町人地における「配置形態」に注目すると、武家地の「平屋/横屋/平入」は「屋敷型」が、町人地の「2階/横・竪/平入」は「町家型」が、武家地あるいは町人地の平均を上回っている。このことから、それぞれ、武家地あるいは町人地らしい形態と言えると考えられる。「細部意匠」では、武家地で「下屋」と「突出玄関」がよく見られた。特に「突出玄関」は、「平屋/横屋/平入」の形態と共に、武家屋敷に類似した特徴となっている。町家地では、「せがい造り」と「2階張出」が特徴的な意匠として見られた。「せがい造り」と「2階張出」は既往研究<sup>5)</sup>において、新潟下町の特徴的意匠とされ、新潟県下越の町場集落としての関連性が見られる。

地区別に、上記の形態について見ると、武家地で「平屋/横屋/平入」が、主屋の歴史的建造物中の30%以上を占める地区は、武家地19地区中7地区であった。割合の高い方から列挙すると「尾上町」「新築町」「築留」「東外ヶ輪裏」「片田町」「片町中曾根」「北外ヶ輪」である。

これらの地区は、対象地の外郭の地区で、町の中心部から外れた位置にある。町人地で「2階/横・竪/平入」が、主屋の歴史的建造物中の30%以上を占める地区は、町人地18地区中、10地区であった。割合の高い方から、「上鉄砲町」「麩屋町」「中町」「立売町」「下町」「桶町」「諏訪前」「指物町」「東町」「紺屋町」の10地区である。これらの地区は、残存率も比較的高い地区が多く、やはり、景観整備を考える上での重要地区と考えられる。
















		横屋 		竪屋 		横・竪 		他		
歴史的 建造物 (主屋)	平屋	91棟		77棟		60棟		21棟		
		平入 88棟 	武家地 65棟	平入 19棟 	武家地 14棟	平入 48棟 	武家地 41棟	町人地 7棟		
		町人地 23棟	町人地 5棟	町人地 7棟						
		妻入 3棟 	武家地 2棟	妻入 58棟 	武家地 34棟	妻入 12棟 	武家地 8棟	町人地 4棟		
	町人地 1棟	町人地 24棟								
	2階	67棟		62棟		180棟		14棟		
平入 67棟 	武家地 23棟	平入 8棟 	武家地 5棟	平入 171棟 	武家地 42棟	町人地 129棟				
町人地 44棟	町人地 3棟	町人地 3棟								
妻入 0棟 	武家地 0棟	妻入 54棟 	武家地 22棟	妻入 9棟 	武家地 3棟	町人地 6棟				
町人地 0棟	町人地 32棟									

図4 歴史的建造物の類型化

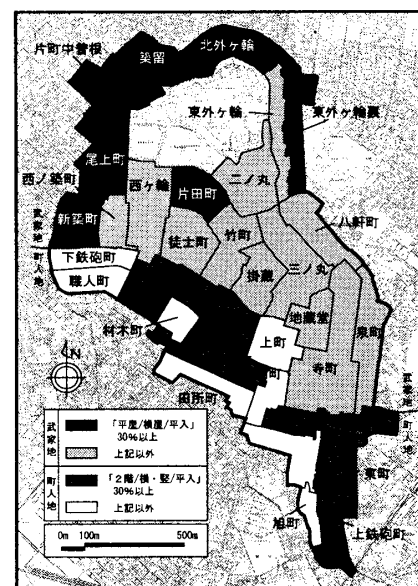


図5 主要形態2種が多い地区



写真 上から  
「平屋/横屋/平入」  
「2階/横・竪/平入」  
「2階張出」

## 5 建築的特徴の考察 (図6)

全体に見て数が多く、かつ特徴的な形態である「横・縦」形態を注目すべき建築的特徴の一つととらえ、特に町人地を対象に「棟向き」に着目し考察を行った。方法として、最初に、町人地内の「通り」を、「表通り」「表通りに平行な路地・小路」「表通りに交差する路地・小路」に分けた。そして、それぞれについて、接する歴史的建造物の「棟向き」の集計を行った。

まず、「表通り」を見ると、全体として、「横・縦」が70%と大多数を占めた。次に「横屋」が15%と多い。つまり、通りの表面では85%以上が、「横屋」的と言える。「表通に平行な路地・小路」では、「縦屋」が最も多く39%、次いで「横・縦」が28%と多かった。2種を合わせると、7割近くになる。一方、「表通に交差する路地・小路」では、「横屋」が最も多く45%であった。これらは、「表通り」から見ると街区内は「縦屋」となっている形態である。よって、「路地・小路」を見た場合、街区内は表通りからは「縦屋」となっているといえる。

つまり、町人地の町並みは、「通り表面を横屋」+「街区内を縦屋」と考えられ、建造物単体だけでなく、町並み全体としても「横・縦」形態であると考えられる。

## 6 結論

(1) 旧城下地域において、歴史的建造物803棟を把握し、平均残存率は20%であった。残存率が最も高いのは下町地区で、残存率は47%であった。30%を超える地区は計4地区で、延べ約9.5haほどである。

(2) 武家地では、391棟を確認し、平均残存率が16%であった。また、特徴的な建築形態として「平屋/横屋/平入」形態を抽出した。これは、主屋の歴史的建造物中の23%を占め、当地の武家屋敷と類似の特徴を有している。

(3) 町人地では、412棟を確認し、平均残存率が25%であった。また、特徴的な形態として「2階/横・縦/平入」形態を抽出した。これは、主屋の歴史的建造物中の45%を占め、「意匠」も含め新潟下町に近い特徴である。

(4) 「横・縦」形態について、特に多く分布する町人地を対象に「棟向き」に着目し、考察を行った。その結果、これは歴史的建造物単体としての特徴であるだけでなく、町人地の町並み全体としての特徴であることが分かった。つまり、町並みの特徴として、「通り表面を横屋」かつ「街区内を縦屋」の町並みが形成されていることが分かった。

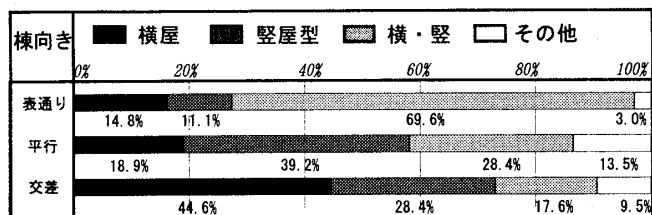


図6 町人地の棟向き

(5) 残存率が30%を超えている、現在の大栄町1丁目近辺の地区は、今後、特に面的な保全、景観整備が必要といえる。また、武家屋敷的な要素をもつ住宅地は、残存率が高くなくとも、良好な景観を維持しており、景観条例等による景観維持が望まれる。同時に、城郭付近の御屋敷や寺社仏閣等にも、登録文化財制度等を用いた点的保全が必要である。このように、各地区の特性や現状に合わせて、複数手法により景観整備を行うことが、今後の同市の都市景観を考える上で、重要であると思われる。

### 【補注】

- (1) 旧城下地域の範囲は、参考文献3)を基図とし、参考文献4)を主な材料として判断した。
- (2) 本研究では、歴史的建造物を「概ね戦前に建てられたと考えられるもの」としている。
- (3) 本研究では、住居や店舗として利用される建造物を主屋と定義した。
- (4) 傍観できる範囲において、確認が困難であるものについては参考文献5)を用いて判断した。

### 【参考文献】

- 1) 渡辺幸二郎：城下町新発田の成立と近代に関する研究，新潟大学大学院自然科学研究科博士論文，p 141～p 201
- 2) 新発田市教育委員会：新発田市歴史的建造物調査報告書，p 2～p 20，2003
- 3) 新発田市 1：2500地形図，1998
- 4) 新発田町全図，1922 新発田市立図書館蔵
- 5) 新発田市航空写真，1998
- 6) 岡田雅行：歴史的建造物の外観から見る地区特性—新潟市下町・下本町市場周辺を対象として—，日本建築学会大会学術講演梗概集F-1分冊，p213～p214，2003
- 7) 大場修：園部旧城下町における町家遺構の発展過程と地方的特質，日本建築学会計画系論文報告集 412号，p119，1990
- 8) 佐藤憲明：城下町村上の旧町人町における歴史的建造物の現存状況，日本建築学会大会学術講演梗概集F-1分冊，p493～p494，2002
- 9) 佐藤憲明：街道沿いの集落における歴史的建造物群の残存状況と特性 新潟県岩船郡とその周辺を対象として，日本建築学会大会学術講演梗概集F-1分冊，p.997，2004